

## 今月の重点活動

### ■えだまめ JAぎふえだまめ部会若手部意見交換会

JAぎふえだまめ部会には、比較的若い生産者による「若手部」が設けられており、栽培の不慣れな人や中堅クラスの人など様々な段階の会員で構成されている。栽培技術情報や営農上の有益な情報の交流の場としての役割など、将来のリーダー養成の機能を担っている。

10月27日には、JAぎふ島支店で「若手部」による意見交換会が開催された。農林事務所からは、は種時期等の検討結果と品種構成表について、JAからは、作付け計画と出荷要領を話題提供し、発言の誘導を図った。は種時期や出荷時間の再検討、防除体系など、多岐にわたって意見が出され、様々な情報の共有がなされた。これらの意見は、11月1日に開催される「えだまめ部会役員会」に上程することとしている。農林事務所はJAと協力し、今後も活動を支援する。

(園芸産地支援第一係・砂川 匡)



【意見交換会の開催状況】

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■農業大学校との連携 先進農家派遣学習出発式

農業大学校2学年の先進農家派遣学習出発式が、10月3日にOKBふれあい会館において開催された。先進農家派遣学習は、実社会での農業・農家生活を体験することにより、経営実践能力の向上と豊かな人間形成を図る目的で実施されるもので、今年は、3名の農大生が、岐阜管内の指導農業士3名の下で10月3日から11月5日までの約1ヶ月の日程で研修している。

出発式では、農大生が指導農業士等を前に派遣学習で学びたい内容や抱負を語り、受入先の指導農業士から、自身の経営内容や経営に対する考えや農大生に対する激励の言葉をいただいた。農林事務所からも農業普及課長が出席し、「自分から積極的に体験、質問していただきたい。

充実した1カ月になることを期待している。」と激励した。

(園芸産地支援第二係・菊井裕人)



【抱負を述べる農大生】

### ■食農教育 小学校の稲刈り体験活動支援

管内の小学校で稲刈りの体験学習が行われ、農林事務所も支援にあたった。いずれも5年生の児童を対象とし、農業者等との交流と地元農業への理解を深めることを目的として開催され、10月14日に行われた本巣市立真桑小学校では、約100名の児童が、10月24日の羽島市立福寿小学校では約90名が参加した。

当日は、地域の生産者やJAぎふ、市役所が体験学習の支援を行った。農林事務所から、作付品種「ハツシモ」の特徴や田植えから稲刈りまでの生育状況、稲刈りの方法について説明した後、刈取り作業の補助を行った。初めて稲刈りを行う児童らは、最初は恐る恐る鎌を使って作業していたが、慣れてくると「もっと稲を収穫したい」と積極的な姿も見られた。最後には、コンバインでの収穫作業も見学し、農作業の省力化も実感できたようだった。

(地域支援第二係・木村裕子、地域支援第三係・松本政行)



【体験活動の様子】

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■水稲 令和5年産水稲栽培こよみの検討

J Aぎふによる令和5年産水稲栽培こよみの検討会が、10月4日にJ Aぎふアグリパーク鈴ヶ坂において開催され、栽培こよみに掲載する各種資材などについて協議した。当日は、J Aぎふ本店及び各営農経済センターT A Cのほか、農林事務所、全農ぎふなど18名が出席した。

この中で農林事務所は、肥料等資材価格高騰に対応した低コストな土づくり資材の採用について助言したり、今年度発生が多かった病害虫に対処する防除体系についてアドバイスを行った。今後、農林事務所では管内の主力品種であるハツシモの作柄を確認するとともに各種研修会を通じて、令和5年産水稲の栽培技術について指導することとしている。

(地域支援第三係・松本政行)



【検討会の様子】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■秋冬野菜 出荷目揃え会開催

各務原市では、本格的な秋冬野菜の出荷時期を迎え、J Aの各出荷組織が「目揃え会」を開催し、あらためて市場出荷のための規格を確認している。毎年この時期に行っているもので、10月11日には秋かぶ部会が、10月17日には秋冬ダイコン部会が開催した。

どちらの部会も、今年は8月の長雨のため、ほ場の準備や播種に苦労したが、なんとか収穫に漕ぎつけた。農林事務所からは、今年の気象経過と合わせて、病害虫防除を中心に、栽培管理のポイントについて説明した。

各務原市では、いずれの品目にもにんじんの組み合わせで栽培される生産者が多く、にんじんの補完品目として農業者の経営が成り立つよう、今後もJ Aと連携して指導を行っていく。

(地域支援第二係・水川 誠)



【目揃え会の様子】

### ■カキ 早秋・太秋・早生富有柿出荷開始、富有出荷目揃え会

岐阜管内では10月から本格的に柿の出荷が始まり、各産地において出荷目揃え会や市場との情報交換会が行われている。

本年の柿栽培は、6月下旬の高温多日照による日焼け果の発生が見られる他、一部ほ場では炭そ病や、カイガラムシ、カメムシの被害が見られた。産地では、被害果実混入を防ぐため、出荷目揃え会では生産者に対し、適切な家庭選果が呼びかけられ、選果場においても選果基準を徹底し、高品質な柿の出荷が行われている。

10月上旬には、「早生富有」、下旬には岐阜県の主力品種「富有」の出荷目揃え会が各産地で開催され、農林事務所では直近の生育状況や栽培管理の注意点等の情報提供を行った。

(園芸産地支援第二係・杉浦真由、瀧 孝文)



【出荷目揃え会】

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■薬用作物 薬用作物産地化に向けた取り組み

10月21、22日に、岐阜市の薬草栽培ほ場において「薬用作物産地支援 栽培技術研修会」が開催された。この研修会は、薬用作物の産地形成や栽培技術を確立することを目的に、岐阜市薬用作物栽培協議会が、岐阜管内の薬用作物生産者13名を対象に実施した。

当日は、公益社団法人東京生薬協会の担当者が講師となり、農林事務所も協力して研修会を進めた。栽培中の薬用作物「キキョウ」「カワラヨモギ」「ジオウ」「ミシマサイコ」「ハトムギ」の栽培ほ場管理を実際に行うとともに、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価などについて、栽培に必要な知識・技術の理解を深めた。

参加者からは産地化の手順や、栽培上の課題解決について質問が多く寄せられ、活発な意見交換の場にもなった。

(地域支援第一係・藤田文彦)



【研修会の風景】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■水稲 根尾米研究会の総会及び研修会が開催される

J A ぎふ根尾米研究会の総会及び研修会が、10月7日に本巣市根尾公民館において開催され、研究会員の他、農林事務所、J A ぎふ（本店・西部営農経済センター・根尾支店）職員など20名が出席した。

「根尾米」は、本巣市の根尾地域で、農林水産省の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に沿って栽培された、安全・安心でおいしい「コシヒカリ」で、研究会の会員30名が13haの水田で生産している。

当日は、農林事務所から今年度実施した坪刈調査や食味調査について結果を報告すると共に、令和5年度の栽培体系について説明を行った。今年度は8月に雨が多く、倒伏や穂いもちが見られて屑米が多かったものの、前年並の食味値を維持しており、会員の生産技術の高さが確認された。今後、農林事務所では、令和5年作付けに向けて土づくりや雑草対策について指導していくこととしている。

(地域支援第三係・松本政行)



【研修会の様子】